

平成 30 年 5 月 19 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26770183

研究課題名(和文) 中国の日本語教育における国語教育生成メカニズムの研究 政策・社会・思想の視座から

研究課題名(英文) A Study on the Generating Mechanism of Japanese Language Education in China from Kokugo Education in Japan: From the Perspective of Policy, Society and Ideology

研究代表者

田中 祐輔 (TANAKA, Yusuke)

東洋大学・国際教育センター・准教授

研究者番号：10707045

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代中国の日本語教育に見られる国語教育との近似性、教師・学習者の文学重視の考えと国語教育への需要・志向性について、それらを実現した言語政策や社会背景、教育思想に着目し、中国における深い「日本理解」を支えたものとその生成メカニズムについて、日中教育交流史の新たな切り口から描き出したものである。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the similarity between kokugo education and Japanese language education in modern China. It explores the demands for literary study and kokugo education by teachers and learners. While emphasizing educational philosophy, this research explores the language policies and social background that created these demands, and evaluates the mechanisms that created and supported the deep understanding of Japan in China. It provides a new perspective of the history of Japanese-Chinese educational exchange.

研究分野：日本語教育学

キーワード：日本語教育学 国語教育 中国 教育思想史

1. 研究開始当初の背景

(1) 「日本理解」を促進し日中を繋ぐ中国の大学専攻日本語教育

国際交流基金の調査によると、中国の日本語学習者数は約83万人でその増加は著しく、日本語能力試験受験者数は世界最多である。中でも高等教育機関で学ぶ学習者が多く、中国の学習者全体の約7割を占め、また、世界の高等教育機関学習者全体の約6割が中国の学習者となっている(国際交流基金2011)。

こうした現代中国の高等教育機関における日本語教育は、戦後複数回にわたってさまざまな緊張状態に置かれた日中間を「日本理解」という形で繋ぐ重要な役割を担うものである。また、突出した学習者数と、高度な日本語人材育成という量的・質的側面から世界の日本語教育を牽引する立場にあると言える(修2012)。そのため、特に大学専攻日本語教育は、諸外国の日本語普及を始めとする「日本理解」推進事業にも重要な示唆を与えるものであることから、さまざまな角度から注目されてきた。

(2) 日本の国語教育との近似性

他国に例を見ない量と質を保つ中国の日本語教育であるが、近年、中国の大学専攻日本語教育について日本の国語教育との密接な関わり合いを指摘する研究が現れている。

例えば、篠崎(2006)では、大学2年次以上のクラスでは日本の日本語教科書や、国語教科書の文章が用いられるケースが多いと指摘され、彭(2006)では、いわゆる日本の学校文法が長年採用されてきたことが指摘されている。申請者は、こうした中国の大学専攻日本語教育と日本の国語教育との関係に着目し、これまで主に「教育内容」と「教師・学習者」に関する調査を行い、国語教育の内容や手法が現代中国の日本語教育の根幹を成してきたことを明らかにした。また、そうした教育を裏付けるようにして教師や学習者には文学教育重視の考えに基づく国語教育への志向性が見られることを明らかにした。

※引用文献：

国際交流基金(2011)『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2009年』凡人社
篠崎 撰子(2006) 精読教材の本文について。
曹大峰編『日语教学与教材创新研究—日语专业基础课程综合研究—』高等教育出版社、151-156

修剛(2012) 中国における大学の日本語教育の課題と教材開発「中国における新しい日本語教材の開発を語る」中国大学日本語教材シリーズ完成記念公開研究会、於：国際交流基金日本語国際センター

彭广陆(2006) 大学日本語専攻用の精読教材における文法体系。曹大峰編『日语教学与教材创新研究—日语专业基础课程综合研究—』高等教育出版社、82-97

2. 研究の目的

本研究は、現代中国の日本語教育に見られる国語教育との近似性、教師・学習者の文学重視の考えと国語教育への需要・志向性について、それらを実現した言語政策や社会背景、教育思想に着目し、中国における深い「日本理解」を支えたものと、その生成メカニズムについて、日中教育交流史の新たな切り口から描き出すものである。

現代中国の知日人材育成に多大なる貢献を果たした中国大学専攻日本語教育が、度重なる困難の中においても一貫して維持してきた日本の国語教育との関係について、申請者のこれまでの研究成果(①「教育内容」②「教師・学習者」の実態解明を中心とした「国語教育」的文学教育の需要と確立プロセスの究明)を踏まえ、それを裏付け支えてきた③「言語政策・社会背景・教育思想」の実態について明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、次に挙げる5つの研究手法を用いた。①インタビュー調査：政策立案者と実施担当者への聞き取り。②ドキュメント調査：日中公文書・日中教育機関記録資料・教育関係者の記録・各機関データベースを用いた分析。③公式統計調査の二次分析：日中行政発表の公式統計調査結果の二次分析。④教育言説の量的分析：中国の日本語教育について論じられた日中の教育言説。⑤アンケート調査：各大学の日本語学科所属教師・学習者に対する意識調査。

以上、5つのアプローチ手法を用いて、中国の日本語教育の国語教育との近似性、教師・学習者の文学重視の考えと国語教育への需要・志向性について、それらの背景となった言語政策や社会背景、教育思想に着目し、中国における深い「日本理解」を支えたものと、その生成メカニズムについて、明らかにした。

4. 研究成果

本研究で得られた研究成果は以下の形でまとめられた。

(1) 中国の日本語教育における国語教育生成メカニズムの研究

本研究は、過去から現在までに中国で利用された主要日本語教科書51冊の分析から判明した日本の国語教育との関係を出発点として、こうした教育がいかなる現状にあり、どのような背景とプロセスを経て確立されたかについて考察し、中国における深い「日本理解」を実現したものは何かについて明らかにするものである。

また、中国における日本語教育の歴史は、中国という国が日本という隣国を理解し、共に対話を重ねたプロセスそのものでもある。本書は、これまで詳しく知られてこなかった日本語教育の歴史を通じて、中国における日

本理解の深化や政策、思想、両国交流の歴史の新たな側面にも光を当てるものである。(図書④、論文②・④・⑤・⑥)

(2) 戦後日本語教科書掲載文法・掲載語に関する研究

本研究は、戦後に発行された初級総合教科書のうち、データ化が可能となった126冊に掲載された文法、および、34冊に掲載された語彙(内容語に限る)を網羅的に集計し、教科書間の類似・差異を定量的に明らかにするとともに、その傾向がもたらされた要因について考察した。これらの分析・考察を通じて、戦後の日本語教科書が持つ特徴、偏り、変化などを客観的な根拠とともに把握することが可能となった。こうして得られる知見は、過去の日本語教育の成果や問題点を理解する上で重要な参考材料となる。また、教科書採用文法・語彙に特定の偏りがあることが明らかになった場合は、その偏りが望ましいものであるか否かを検討することを通じて、より良い日本語教科書を制作していくために有益な示唆が得られる可能性がある。(図書②・③・⑤、論文①・③、学会発表③)

(3) 日本語教科書作成者の語りから見る日本語教育史の研究

本研究では、日本語教材作成者がどのような背景と目的の下にどのような手順でどのような内容の教材を作成したかについて、直接作成者から証言を収集した。戦後日本語教材を作成してきた教師は、同時によき日本語教育実践者、よき日本語教育研究者である場合が多く、そうした専門家の証言や実践の記録には、日本語教育の知見と理念、ノウハウが膨大に含まれている。我々が普段取り組む日本語教育は、必ず何らかの形で過去から現在に至る人々の研究や実践的取り組みの歩みと関わりを持つものである。加えて、新たなセオリーや教育手法、指針を検討し提示する際にも、現在に至る経緯を理解していなければ、有効な変化を起こすことができず、かけ声倒れに終わる可能性もある。そうした意味で教科書作成者の証言は貴重な参照資料となると考えられる。(図書①、学会発表②)

(4) 帰国・外国人児童生徒のための教科書語彙シラバスの研究

帰国・外国人児童生徒の中で、中国からの学習者は多くの部分を占める。そこで用いられる日本語教科書作成の際に語彙がどのように選択されているかについて、明らかになっていることは少ない。教科書掲載語は、想定する学習者のレベルや、現実の日本語使用場面における実用性を考慮して、また既存の教科書を参考にするなどして総合的に選定されているものと考えられるが、実際にどのような選択傾向が存在しているのかについての、横断的かつ定量的な研究は行われてい

ないのが現状である。本研究では、日本語教科書における語彙選択の傾向を把握するための基礎的分析として、戦後に発行された初級総合教科書のうち各年代を代表する教科書の掲載語を集計し、時代ごとの変化や教科書間の類似・相異度等について定量的な評価を行った。また、そこで明らかになった語彙選択の傾向がもたらされた要因についても、既存の文献との照合を通じて考察を加えた。(学会発表①)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

- ①【査読無】田中祐輔、〔書評〕山崎誠著『テキストにおける語彙的結束性の計量的研究』、『日本語の研究』14(2)、日本語学会、2018年、134-140
- ②【査読無】田中祐輔、中国における日本の仏教文化と国際交流—日本語教育の視点から—、『親鸞の水脈 特別号』、真宗文化センター、2017年、139-146
- ③【査読無】田中祐輔、データの視覚化(3)—Word・Excel・PowerPointを用いた作図—、『計量国語学』30(3)、計量国語学会、2015年、155-174
- ④【査読有】田中祐輔、1960年代から1980年代の中国大学専攻日本語教科書と日本の小・中・高等学校国語教科書との関わりと教科書内容の変遷—文章の様式・題材を中心に—、『言語文化教育研究』第12巻、言語文化教育研究学会、2014年、198-220
- ⑤【査読無】田中祐輔、中国の大学における「日本語教育」ともう一つの「国語教育」—日中友好と相互理解に貢献した神奈川県教育委員会中国日本語教師派遣事業の発端・経緯・評価から—、『ことばと文字』2、日本のローマ字社、くろしお出版、2014年、83-95
- ⑥【査読有】田中祐輔、日本の国語教科書は中国の大学専攻日本語教育においてどのように用いられているのか—教科書の設問に表れた指導内容の比較分析を中心に—、『文学・語学』210、全国大学国語国文学会、2014年、26-38

[学会発表](計 3 件)

- ①齋藤ひろみ・森篤嗣・田中祐輔、JSL児童が在籍学級の学習に参加するための日本語—教室談話と教科書の語彙分析の結果から—、子どもの日本語教育研究会第3回大会、2018年3月3日、於：聖心女子大学
- ②田中祐輔、語彙データから見る日本語教育の現代史—戦後日本語教科書掲載語と作成者のオーラルヒストリーから—、国立国語研究所経年変化班会合、2017年12月16日、於：国立国語研究所
- ③田中祐輔、既存教科書から見た語彙シラバス、「学習者コーパスから見た日本語習得の

難易度に基づく語彙・文法シラバスの構築」
国立国語研究所研究発表会、2014年6月28
日、於：国立国語研究所

〔図書〕(計 5 件)

- ①田中祐輔、当事者の語りから日本語教育の歴史を考える(第7章第1節)、『公共日本語教育学—社会をつくる日本語教育—』、川上郁雄(編集)、くろしお出版、2017年、138-143
- ②田中祐輔、解説 日本語教材目録データベース、吉岡英幸・本田弘之(編)、『日本語教材研究の視点—新しい教材研究論の確立をめざして—』、くろしお出版、2016年、225-226
- ③田中祐輔、初級総合教科書から見た語彙シラバス(第一章)、山内博之(監修)／森篤嗣(編)、『現場に役立つ日本語教育研究2 ニーズを踏まえた語彙シラバス』、くろしお出版、2016年、1-27
- ④田中祐輔、『現代中国の日本語教育史—大学専攻教育と教科書をめぐって—』、国書刊行会、2015年
- ⑤田中祐輔、初級総合教科書から見た文法シラバス(第九章)、山内博之(監修)／庵功雄・山内博之(編)、『現場に役立つ日本語教育研究1 データに基づく文法シラバス』、くろしお出版、2015年、167-192

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

受賞：第32回大平正芳記念賞特別賞、2016年6月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 祐輔 (TANAKA, Yusuke)
東洋大学・国際教育センター・准教授
研究者番号：10707045

(2) 研究分担者 ()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：

(4) 研究協力者 ()